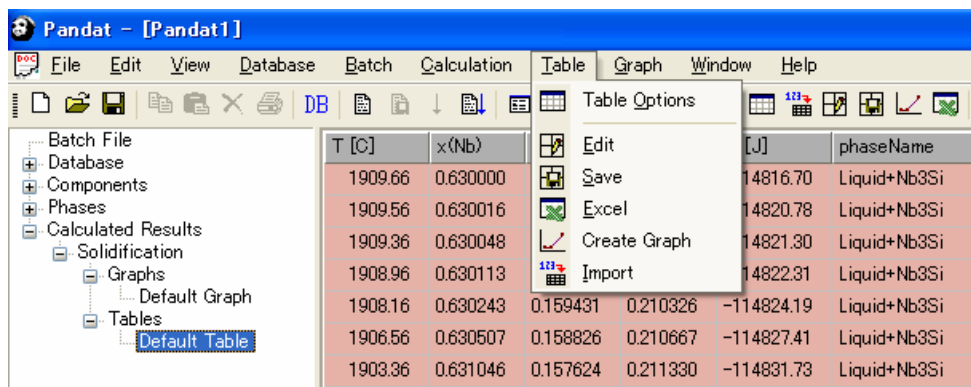
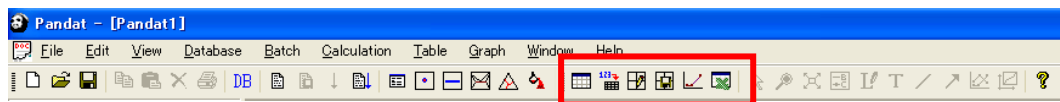


テーブル機能

Pandat 5.0 からテーブル機能が新規に追加されました。 Table メニューには Table Option, Edit, Save, Excel, Create Graph, Import が用意されています。 Table メニューは下図の通りです。



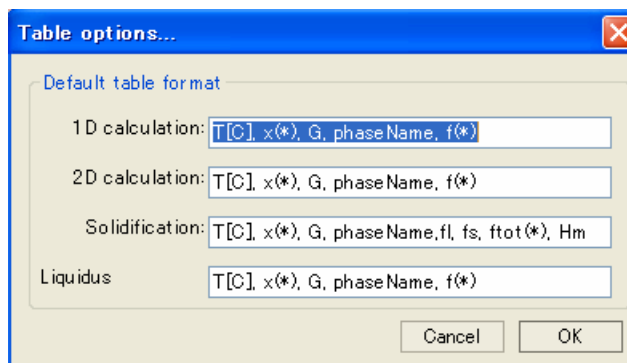
ツールバーにも各アイコンが用意されています。但し、Table メニューとツールバーともに、Explorer window において Tables が選択された時にのみ有効となります。



1. Table Options

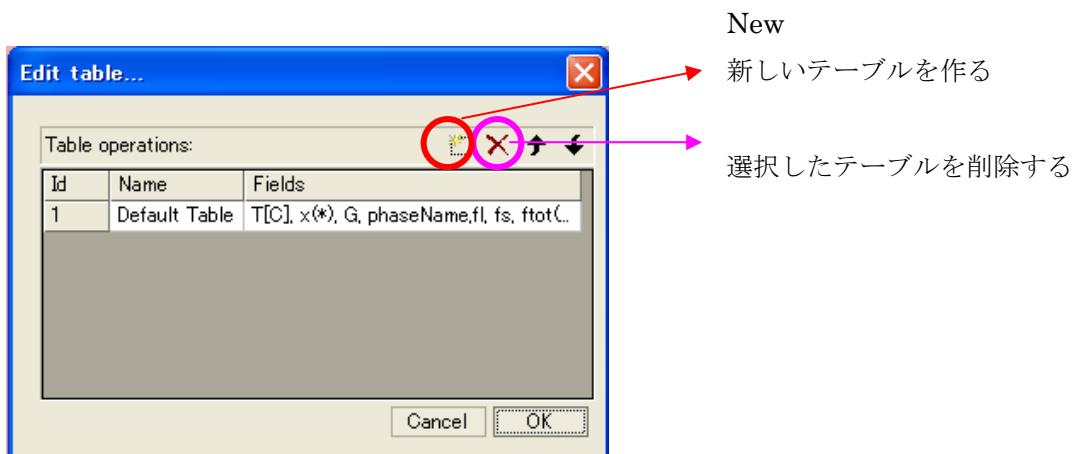
Pandat は下記の計算を行うと自動的にテーブルを作ります。

ライン計算 (1D)、状態図計算 (2D)、液相面計算、凝固計算
各計算時のテーブル内容 (format) を Table Options で定義できます。

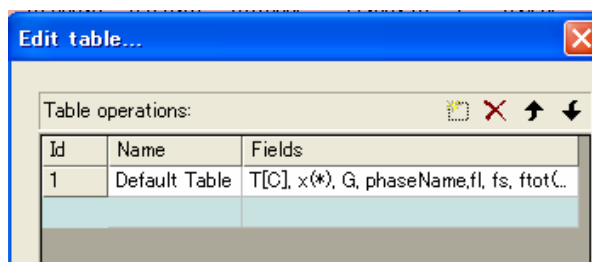


2. Edit Tables

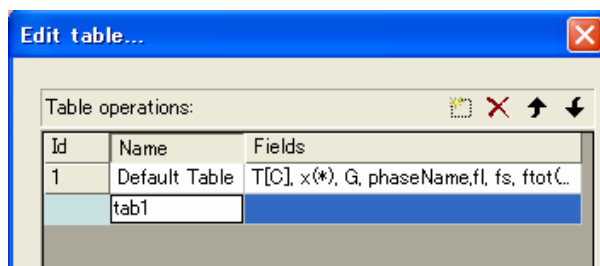
計算後、Pandats が自動的に作成したテーブルを画面上で見て、「他の値を見たい」「単位 mass \leftrightarrow mol を変えたい」時にこの機能を利用します。注意：Default Table を削除・変更しないでください。通常、新規にテーブルを定義します。



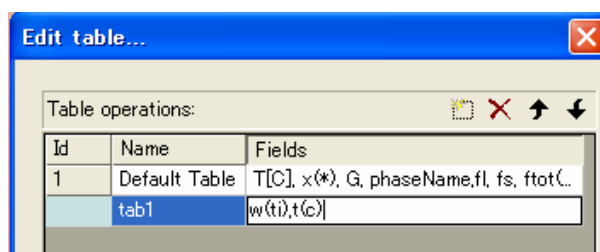
New ボタンをクリックすると、新しい空白行が作られます。



適当なテーブル名を入力します。
たとえば tab1



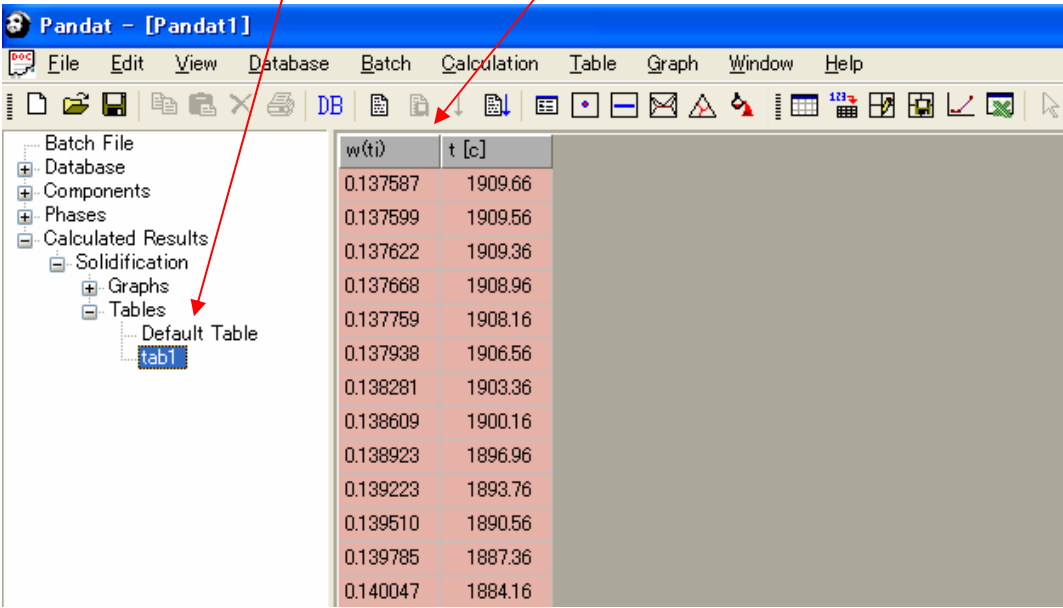
必要とする熱力学量を Fields
欄に入力します。
たとえば mass fraction of Ti
と温度 (°C) の 2 変数



作られるテーブルは 2 列ということになります。

OK ボタンをクリックします。

画面表示されるテーブル名は **tab1** であり、定義した 2 列となります。



w(t)	t [c]
0.137587	1909.66
0.137599	1909.56
0.137622	1909.36
0.137668	1908.96
0.137759	1908.16
0.137938	1906.56
0.138281	1903.36
0.138609	1900.16
0.138923	1896.96
0.139223	1893.76
0.139510	1890.56
0.139785	1887.36
0.140047	1884.16

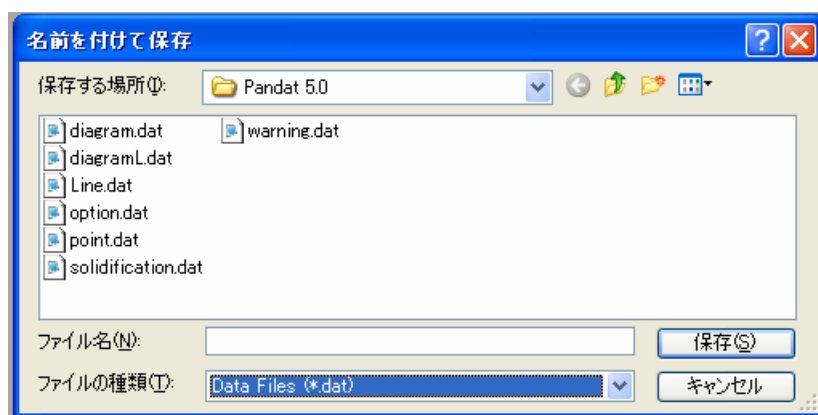
このように各種熱力学量をテーブルを介して画面表示することが出来ます。

3. Save Table

画面表示中のテーブル値をファイルに保存できます。 テーブル定義を保存するのではなく、テーブルの中身（数値）を保存します。

ファイルの1行目は変数名 $w(t_i)$ と $t[c]$ となります。

列はタブで区切られます。



一方、画面表示中の値を
範囲選択後

Ctrl キーと Shift キー
を押しながら C キー
を押すことでコピーできます。

WORD や EXCEL にて
その値（数値表）を貼り付け
ることが出来ます。

w(t _i)	t [c]
0.137587	1909.66
0.137599	1909.56
0.137622	1909.36
0.137668	1908.96
0.137759	1908.16
0.137938	1906.56
0.138281	1903.36
0.138609	1900.16
0.138923	1896.96
0.139223	1893.76
0.139510	1890.56

4. Excel

テーブル値を直接 Excel に貼り付けます。

5. Create Graph

画面表示されている数値テーブルにおいて、2つ以上の列を選択することでその図を表示させることができます。

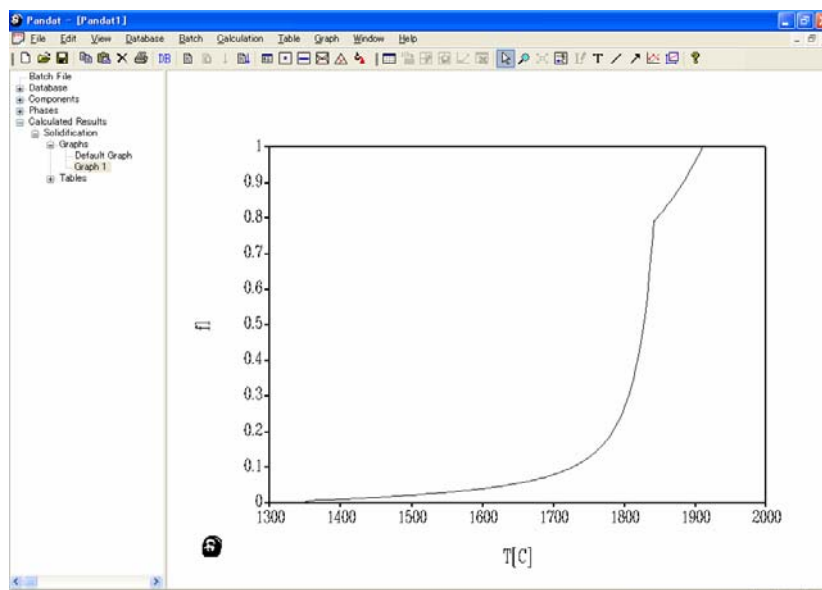
最も左側に選択した列がX軸となります。右側に選択した列がY軸となります。

列を指定するにはタイトル行をクリックします。2列目を指定する際には **Ctrl** キーを押しながらタイトル行をクリックします。

そして **Table** メニュー → **Create Graph** を行います。

T [C]	x(Nb)	x(Si)	x(Ti)	G [J]	phaseName	fl	fs
1909.06	0.630000	0.160000	0.210000	-114816.70	Liquid+Nb3Si	1.000000	0.000000
1909.56	0.630016	0.159962	0.210022	-114820.78	Liquid+Nb3Si	0.999577	0.000423
1909.36	0.630048	0.159886	0.210066	-114821.30	Liquid+Nb3Si	0.998734	0.001266
1908.96	0.630113	0.159734	0.210153	-114822.31	Liquid+Nb3Si	0.997052	0.002948
1908.16	0.630243	0.159431	0.210326	-114824.19	Liquid+Nb3Si	0.993712	0.006288
1906.56	0.630507	0.158826	0.210667	-114827.41	Liquid+Nb3Si	0.987120	0.012880
1903.36	0.631046	0.157624	0.211330	-114831.73	Liquid+Nb3Si	0.974282	0.025718
1900.16	0.631595	0.156434	0.211971	-114714.58	Liquid+Nb3Si	0.961390	0.038110
1896.96	0.632153	0.155255	0.212592	-114597.58	Liquid+Nb3Si	0.949920	0.050080
1893.76	0.632700	0.154087	0.213199	-114480.74	Liquid+Nb3Si	0.939950	0.061850

テーブルから
作成した図



6. Import

この機能を利用してデータ（例えば実験数値）を Pandat に取り込むことができます。データはアスキーファイル（テキストファイル、*.txt もしくは *.dat）として用意します。データの1行目は「列の名前」にする必要があります。

注意：「列の名前」は重複させないで下さい。

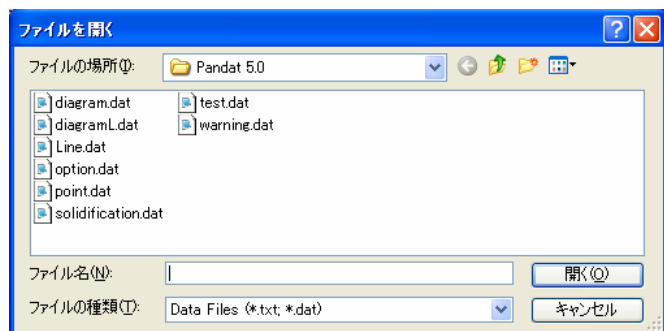
データの列は空白文字もしくはタブでセパレートします。

まずデータファイルを作ります。

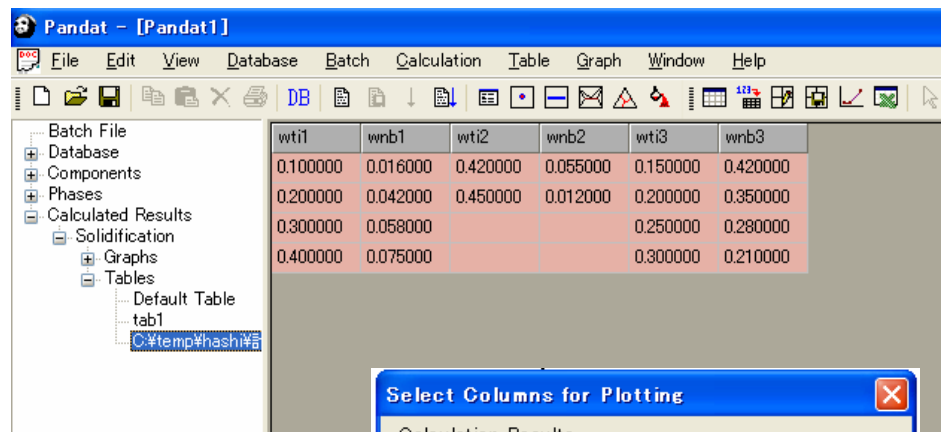


wti1	wnb1	wti2	wnb2	wti3	wnb3
0.10	0.016	0.42	0.055	0.15	0.42
0.20	0.042	0.45	0.012	0.20	0.35
0.30	0.058			0.25	0.28
0.40	0.075			0.30	0.21

計算後、Import を実行します。



Pandat に取り込む
ことが出来ます。



このデータファイル名は
図を作成する際に Available Tables 項にて
選択でき、ファイル1行目に定義した
「列の名前」が表示されます。
図のX変数とY変数をどれにするのか
ここで選択することが出来ます。

